

冬期間の交通事故に備えた
交通救助訓練

TORIRIDE

此
石

五城目消防広報誌

Vol.7

【特集】

- ・ 令和4年 五城目町消防出初式
- ・ 消防団 第5分団長インタビュー

祝 五城目町消防出初式



令和4年 五城目町消防出初式



令和4年1月4日に、**五城目町消防出初式**が開催されました。

消防団員、消防職員合わせて**105名**が参加し、朝市駐車場で服装や姿勢、礼式などの点検を行った後、上町、下町通りと中央線を規律正しく行進しました。

式典は広域五城目体育館で行われ、防災や消防活動に功績のあった個人、分団に**表彰状**や**感謝状**が授与されました。

本年も町民の皆様が安心した日々を過ごせるように、**団員、職員**一丸となって五城目町の防火・防災活動に取り組みます。

交通救助訓練

交通事故が増加する冬期間に合わせ、12月23日に「交通救助合同訓練」を実施しました。

昨年までの訓練では、交通救助事案時の初動対応の統一化を目的とし、活動時の注意点などを学んだ後、実車を用いて車両破壊のさまざまな方法の確認をおこなっておりました。

今年はいくまでの訓練を更に発展させ、内容を事前に知らされない

「ブラインド型の現場想定訓練」を実施しました。訓練では、車両内に閉じ込められた要救助者がいるという想定で行われ、実際の現場さながらの緊張感のもと、隊員同士が連携し合い要救助者の早期救出を目指しました。

この訓練を通じ、活動に関する隊の連携や隊員相互の結束力をより深めることができました。今後も救助技術向上のため、各種訓練に励みます。



五城目町消防団の活動

GOJOME FIRE CORPS VOLUNTEER FIREFIGHTERS

分団長インタビュー

「頼られる消防団」



五城目町消防団 第5分団長
宮崎 博之

学生時代は陸上部に所属し、県大会で区間賞を記録するほどの実績を持つ宮崎分団長。俊足を生かし、消防操法大会では多くの功績を残してこられました。その時に受けた激励に恩返しができるよう、現在は分団長として後進の指導に力を入れています。

「もっと消防団を頼ってほしい。地域と消防団とのかかわりを深め、災害対応だけでなく、小さなことでも頼られる消防団でありたい。」そう話す宮崎分団長は、人と人との繋がりを大切にしており、インタビュー当日も頼りがいのある優しい笑顔で答えてくれました。

小型動力ポンプ積載車が5台納入！

小型動力ポンプ積載車が更新となり、第5分団、第7分団、第8・9分団2部、第10・11分団1部、第12・13分団1部の5か分団に納車となりました。

車内空間の快適化を図るためデッキバンタイプの車両とし、両側面の炎のデザインは消防署と消防団で一体となって五城目町を守るといった意味を込めて、消防署のタンク車と同様の炎のデザインを取り入れております。



～編集後記～

インスタライブ消防署見学を行った際に、私たちの使う「そうすれば」に対して、「方言ですか？」とコメントがありました。今まで秋田弁と意識していませんでしたが、調べてみると「そうすれば」自体は標準語ですが、話し始めや接続詞として使うことに、他県の人には、どうも違和感があるようです。

そうすれば、今後とも五城目消防広報誌「砦」をよろしくお願ひいたします。

「砦」 第7号 編集・発行/五城目町消防本部 消防広報誌編集委員会

〒018-1856 秋田県南秋田郡五城目町富津内下山内字奈良崎90-1

TEL 018-852-2028 FAX 018-852-4367

HP <https://www.town.gojome.akita.jp/syobo>

令和4年2月1日 発行

HP



Facebook



Instagram

